魅力あふれる県立高校推進ビジョン改訂版
（中高生用・素案の概要）



香川県教育委員会

香川の未来を創る 「魅力あふれる県立高校推進ビジョン（改定版）」

第１章　この計画の目的と進め方

【激変する時代と社会】
激変する時代と社会
- 急速な少子化・人口減少の進行
- AI・デジタル技術の劇的な進化
- 2040年を見据えた人材需給のギャップへの対応

【これからの県立高校の目指す姿】
- 多様な他者と協働しながら、様々な社会変化を乗り越えて、持続的に発展する社会を創る「意志ある若者」を育成する
- 「好き」と「得意」を伸ばし、可能性を広げる
- 予測困難な未来を生きていくための資質・能力をバランスよく身につける

【計画期間】
令和9年度～令和12年度（4年間）
【経緯】
・県立高校の在り方に関する協議会で協議
・各種アンケート、ヒアリング



2040年の人材需給ギャップ
これまでの進学や就職の傾向が続いた場合、理系人材、専門職、現場人材が足りなくなり、文系人材や事務職が余ってくることが予測されています。

第２章　いまの香川の県立高校の様子と、解決すべき問題点

社会の状況の変化

想定を上回る少子化



中学校卒業者数
令和元年度8,949名
令和20年度5,216名

AI、デジタル技術の進化





グローバル化の進展



高校授業料無償化



国が、高校教育改革に関する基本方針を発表

県立高校の現状

高校の小規模化





高松地域の高校への進学が集中

進学、就職状況



県内就職	13.1%
県外就職	2.3%
県内大学等	15.1%
県外大学等	44.7%
専修学校等	19.3%



これまでの取組

１人１台端末
電子黒板等
ICT環境整備



探究の推進
魅力化・特色化



再編整備の準備

石田高校　志度高校　津田高校



東讃統合高校



全国からの生徒募集（せとうち留学）の推進

残された課題

定員未充足
一般選抜の競争力低下



労働需給ギャップへの対応



現場人材
理系人材
デジタル人材の不足



学区の壁
入試日程の問題



不登校生徒
不登校を経験した生徒の増加

第３章　大切にしたい考えと、目指す県立高校の姿

県立高校の果たすべき役割

すべての県立高校で
予測困難な社会を生きていくために必要な資質・能力を育成



イノベーション創出力
グローバル社会への対応
郷土への理解・郷土愛
▲
【架け橋・手段】
情報活用能力
▲
【基盤】
知・徳・体のバランスの良い成長
学びに向かう態度

改革の方向性（2040年に向けた高校の姿）

それぞれの県立高校で、
学科、コースの特性や地域の教育資源、生徒の多様な実態を活かして、特色ある教育活動を展開



専門高校の機能強化 高度化



普通科改革を通じた高校の特色化 魅力化



地理的アクセスの確保 多様な学びのニーズへの対応

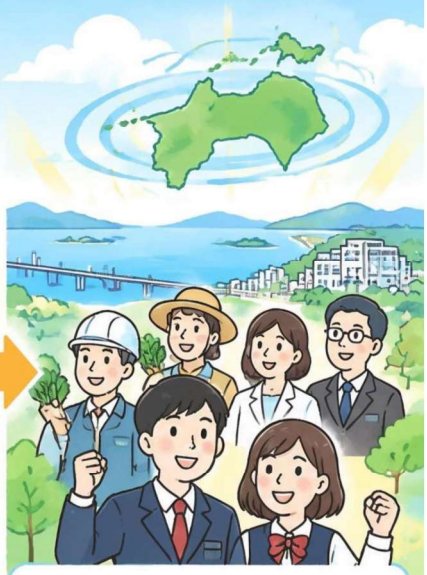
改革先導拠点

多度津高校
農業経営高校

丸亀高校

小豆島中央高校

普及・展開



高校が**地域・産業・大学**とつながる
「開かれた探究と創造の拠点」に。
未来をみんなで創る
「香川型共創社会」へ。

第４章　県立高校を新しくする3つの大きな柱

改革先導拠点の取組みを中心に全県展開

多度津高校、農業経営高校



専門高校の機能強化・高度化

充実した設備で、プロと学ぶ
チームで課題を解決する
地域の人とともに、未来を創る
大学に進んで、高度技術者になる
専門高校の面白さを、子どもに伝える

丸亀高校



普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化

観察と実験で、とことん研究する
理科、数学、情報を使って学ぶ
プロから、理数系のキャリアについて学ぶ
文系の課題もデータを使って探究する
専門学科とも、一緒に学ぶ

小豆島中央高校



地理的アクセスの確保
多様な学びのニーズへの対応

オンラインで他校や遠くのプロとつながる
寮や通学バスなどのサポートを充実
地域とつなぐコーディネーターを置く
社会、企業、地域と力を合わせる

第５章　新しい県立高校づくりを支えるための仕組みや環境の整備

地域と歩む 自律的な学校づくり



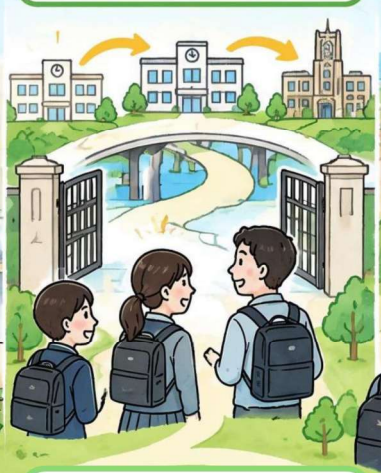
・校長先生がリードする学校へ
・みんなで学校を育てる体制づくり（コミュニティ・スクール）

学びの場と 先生の環境整備



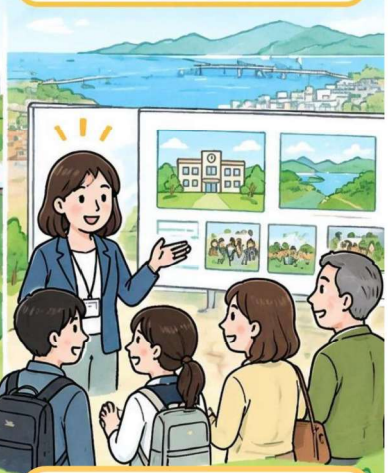
・東讃統合高校の開校
・中讃地域の高校の配置を検討
・学校の仕事を減らし効率的にして先生が生徒と向き合ったり、授業の準備をする時間を増やす
・施設設備の充実
・先生の指導力向上

中-高-大-社会の接続



・高校入試の学区の見直し
・高校入試の日程、方法の見直し
・高松地域に新しい中高一貫教育校の設置に向けた準備
・全国からの生徒募集の推進
・高大連携、高大接続の推進
・地域や企業等、社会との連携を推進

県民全体で進める 高校教育改革



・なぜ高校教育改革が必要か、その理由をわかりやすく伝える
・学校の情報をしっかり公開し、みんなに応援してもらう

第６章　計画の実行と、これからの進め方

計画の進み具合を 確認して見直すしくみ



・計画をつくって終わりにするのではなく、進み具合をしっかり確認していく
・うまくいかないところは原因を調べて直し、地域の専門家や大人の意見も聞きながら、もっと良い方法へと進化させる

教育委員会だけでなく 地域・大学・企業とも 力を合わせるしくみ



・教育委員会を中心に、県の多くの部署と連携して、協力しながら進めていく
・さらに、大学や地元企業、地域の大人たちとも力を合わせて、県全体でみんなの高校生活を支える体制を整えていく

目指すゴールを具体的に決めて、みんなの未来を応援していく



・専門高校は、企業や大学と協力した本格的な学びを全校で実施
・普通科高校は、 文系・理系の枠をこえて、探究的な学びを広げる
・高校生活の満足を高め、卒業時に次の進路が決まらない人を減らす